

古都奈良の秋を訪ねて

(第88回くらわん会 2003/10/07)

近鉄奈良駅に着き階段を上がり、駅の傍にある噴水の前で合掌している行基菩薩の立像を見ると、やはり古都という雰囲気がある。そのすぐ横から入る商店街はいかにも奈良らしく、アーケードにはこの町の象徴である鹿をあしらった照明灯が掲げられている。集合場所である南円堂まで行く途中に、キリスト教会があった。それは普通、よく目にする西洋的建物ではなく、和風の家屋根に十字架がおかれていて、これがまたいかにも奈良らしい。ここまできると車の音も聞こえず、人影も少なく落ち着いた雰囲気になってくる。南円堂の裏のちょっとした広場に126名が集まり、久しぶりに澄みきった空気の中、佐々山さんのリードで準備運動を行った後、いよいよ出発。

ならまちの路は狭く、混雑を避けるため今回は3班に別れて行動することになった。今日は10月初めなのに11月初旬の気温とか。秋の気配をなんとなく感じる。紅葉の始まりであろうか、桜の葉が所々色づいている。ならまちに向かう途中、五重の塔の美しい姿が目に入ってくる。

猿沢の池の前、六道の辻の天上界へ通ずる道を通って、ならまちへ。昔風の黒い格子の平屋で、いかにも老舗らしいふとん店に入ったが、中は薄暗く陶器、衣服、装飾品等の雑貨を売っていて、ふとん店のイメージは無い。奥庭には、元興寺金堂の礎石があり巨大な柱を支えていた、面影を残している。世界遺産である元興寺の門前から本堂と庭を覗いたが、それだけではこの寺が、古代から近世へと続く文化遺産の宝庫とは思えない。

奈良町資料館には、昔、暮らしに使っていた道具や衣服が陳列されていて、現代との生活様式の差がよくわかる。明治以降発行された紙幣、戦後発売されたタバコが陳列されていて懐かしく思う。

安養寺、徳融寺を経て、格子の家へ。中は屏風絵(名作?)のある居間に箱火鉢と鉄瓶、箆笥階段、おくどさん(かまど)等あって昔の庶民の生活様式がよくわかる。十輪院の庭を眺め、重要文化財の福智院をお参りし大乘院の庭園へ。館内に

駅の傍らの噴水前で合掌している行基菩薩、古都奈良ではの風景



南円堂の裏のちょっとした広場に百二十六名が集合



猿沢の池の前、六道の辻の天上界へ通ずる道を通って、ならまちへ



昔風の黒い格子の平屋で、いかにも老舗らしいふとん店





六世紀末蘇我馬子によって開かれた法興寺（飛鳥寺）が平城遷都に伴い移転、元興寺極楽坊はその一部



広大な寺域に、金堂・講堂・塔・僧房などが立ち並んでいたが、平安時代半ば、その勢威も衰えた



奈良町資料館の中には昔の生活用具や衣服を展示している



庚申堂、奈良町の民家の軒先につり下げられている赤い人形の「身代わり猿」は庚申さんのお守り

は往時の姿を復現した模型が展示され、それを頭に描きながら眺める庭園には、緑の中にピンクの花をつけ、きれいに枝を整えられた百日紅があり、その斜め後方には真っ赤な丸木橋が池にその姿を映し心を癒してくれる。ここでしばし休憩した後、国道169号線を通り昼食の場所、浮見堂へと向かう。

車がひっきりなしに通る合間に国道から展望すると、木々の間から遠くの方に五重の塔が見えた。国道からわきに入り、浮見堂に通ずる道を行くと林の中に子鹿が草を食べたり、座ったりしていて可愛い。角を切られた雄鹿も何頭かいる。ちょうど今は、鹿の発情期で雄の気が荒荒しくなっているため、危害を加えないよう角きりが行われるのだとか。

鷺池周囲の景色のいいところを選んで、めいめいが昼食をとった。池の水は流れ出るところが無いのか、濁っていてきれいとは言えない。錦鯉が泳いでいるが、鮮やかな模様もだいなしだ。われわれのグループは荒池に浮かぶ浮見堂まで行って食事することにした。橋を渡りながら、遠くを見ると五重の塔が見える。今と違って古代には、四方八方からもっとよくその姿が見えていたことだろう。食事が終わって、春日大社へ向かう途中で、珍しい白い雄鹿が目に入ってきた。陽を受けたその姿は白く輝いている。写真を撮るため傍に行っても悪びれることなく、その美しい姿を誇示している。カメラ慣れしているようだ。

若草山では元気な小学生が手を振って「がんばって」と勇気付けてくれたのには思わず苦笑した。二月堂で解散、後は自由に帰路につく。東大寺を通過して奈良駅に向かうが、観光客が多い。せんべいを鹿にやって驚いたり、喜んだりして楽しんでいる。帰りの車窓から広大な平城京址を見ながら古代に思いをはせつつ鶴橋へと。

今回は、落ち着いた風情を持つならまちのいろんなところを探訪できて、とても有益な一日であった。効率ばかり求めてきた、現役時代には感じられなかった心のゆとりを知ることが出来た。これを大切にせねばなるまい。 清水次雄記



元興寺の塔頭の一つ徳融寺は右大臣・藤原豊成の娘、中将姫が七歳のとき母が死に継母照夜に折檻された伝説がある



福地院は興福寺の玄防の開いた平城清水寺が始まりで、実信により再興された、本堂は裳階付き(重文)



重要文化財の藤岡家住宅では、雨戸と縁側の収納実演も行われる



格子の家は伝統的な町家を再現、開口が狭く、奥へ長くつながる。外から家の中を目隠しする役目が格子



十輪院は元正天皇の勅願寺で元興寺の子院、この庭を水原秋桜子は「優曇華や石龕きよく立つ仏」と詠んでいる



大乘院の庭園、百日紅と丸木橋と緑の調和が素晴らしい



奈良ホテルは明治四十二年創業以来九十年の歴史を持つ、格調高い桃山御殿総檜づくり



鷺池に浮かぶ檜皮葺き八角堂形式(六角形)のお堂、浮見堂で昼食をとった人も



鹿を相手に昼食後のひととき

鹿の発情期で雄の気が荒荒しくなっているため、危害を加えないよう土日には角きりが行われる



春日大社へ向かう途中で、珍しい白い雄鹿が陽を受け白く輝いていた

苔むす森に囲まれた参道を春日大社に向かう



春日大社は、鹿島神宮、香取神宮、枚岡神社から春日の地に迎えられた神々が祀られているが武甕槌命は御蓋山の頂上に降臨されたという

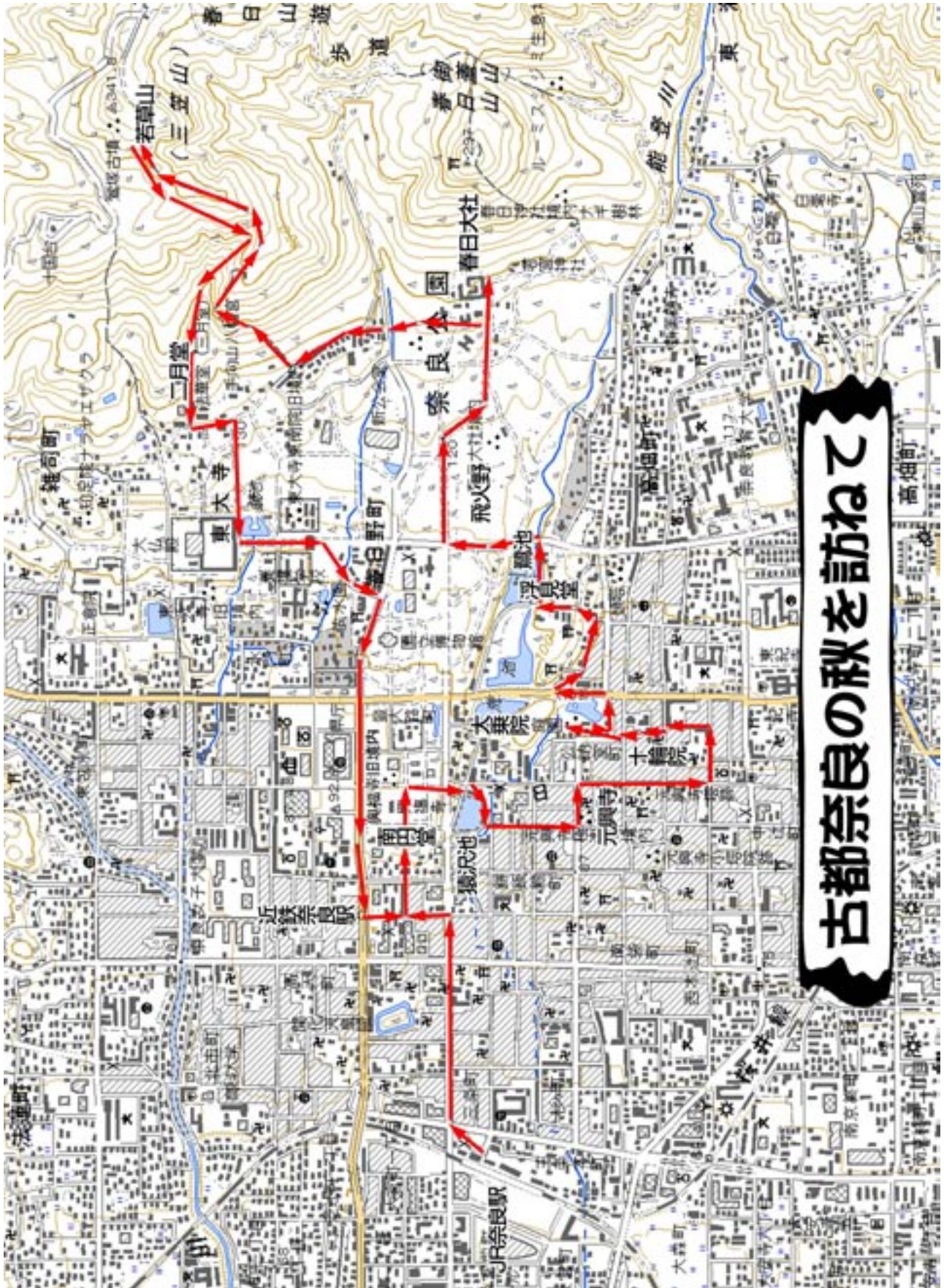
遠足で行ったことがある若草山がなんとなく懐かしい思いがする



お水取り「修二会(シュニエ)」が行われる東大寺二月堂で現地解散

東大寺大仏は七五二年に開眼供養、七八九年大仏殿や講堂などの伽藍が完成、現在の伽藍は一七〇九年に再建





<行程>

近鉄奈良・JR奈良駅⇒南円堂裏⇒猿沢池⇒ならまち⇒元興寺⇒十輪院⇒大乗院⇒浮見堂
 (鶯池、昼食)⇒春日大社⇒若草山⇒二月堂(現地解散) 約8km

2003年10月07日(火) 第88回例会 126名参加